

# 中国初・中等教育課程改革について

報告者 華東師範大学教育課程研究センター専任講師 鄭 大年

2001年6月、教育部(日本の文部省に当たる)が、『基礎教育課程改革綱要(試行)』を發布することによって、初・中等教育課程改革が正式的に始まった。中国教育発展の新しい探索は、この分野の改革をはじめ、学校の運営体制、学校の管理、教師教育などの改革から始まった。本文では、今回の課程改革の背景、主要措置及び初步実施での問題点について、簡単に紹介したい。

## 一 初・中等教育課程改革の背景

### 1. 伝統的な教授・学習様式

教育研究界が指摘した伝統学校教育の弊害——教師中心、学科知識本位、知識注入主義など——は、中国の高等学校、中学校及び小学校ではよく見られる。それによりもたらされた学習過程の単調、教育成果の狭さ(知育を主として、コミュニケーションの能力、心理と身体的发展を無視する)、高級能力(問題解決の力、創造力など)の欠乏は、常に非難されている。

### 2. 社会の移り変わりによる学業競争

教育発展における社会状況がこの教育の危機を深化する。中国では、20年余りの社会経済発展によって、個人が社会生活と職業生活で直面している競争は絶え間なく激化し、教育分野——就職に直接的に関連している大学教育段階から、高校、中学校、小学校、ひいては幼稚園まで——にも伸びている。初・中等教育段階全体(1-12学年)は、100%の受験教育になっている。受験教育の主導的地位は、必然的に重大な後の結果をもたらした。学生の負担は日増しに重くなり、学生間の競争はかつてなく激しくなり、学校教育により多くの学習が嫌いな人と失敗者は現れたのである。

## 二 初・中等教育課程改革の主要な措置

中国教育界は「素質教育」を原則とし、「受験教育」の支配的な地位を変え、上述の問題を解決しようと試みる。課程改革がこの努力の一部となっている。課程改革は1996年から始め、『基礎教育課程改革綱要』も制定され、相応の措置もとられた。2001-2005年は実験段階に入り、次第に普及し、2005年に全面的に実施に移される。今度

の課程改革の主要な措置は以下の諸方面が含まれている。

### 1. 課程構造の調整

これまでの課程構造と比べ、新課程の新しさは次の二点に鮮明に表れている。(1)総合課程の増加。これまでの課程はすべて学科別に、新課程の多くの学科は学科別にも、総合的にも設置されている。小学校の段階では、総合的な学科が多く、典型的なのは科学課程である。それと同時に、総合実践も新設された。(2)地方と学校が自主的に設置する課程も増えています。課程の三級化管理(国、地方、学校)を実施し、以前国家課程が統一している局面を取って代わる。

### 2. 課程標準と課程内容の調整

各学科も『基礎教育課程改革綱要』に基づいて、新しい課程標準を作り、生徒が各段階各学習分野では達する目標と課程内容を具体的に確立する。学生の負担を軽くし、全面的な発展を促進する要求を出発点として、課程内容の方はこれまで「繁、難、偏、古」と知識を重要視すぎる現状を変え、課程内容と生徒生活・現代社会・科学技術の発展と結びつけ、生徒の学習興味と経験に重視し、生涯学習に必ず備えなければならない基礎知識と技能を精選する。

### 3. 教材管理体制の変革

教材管理の方面では、教育部が統一的に編纂・発行した様式から、各機関、個人が編纂し、教育主管部門が専門家を集め、審査する様式に変わった。これによって、教材開発主体の多元化と教材種類・形式の多様化を促進する。学校と教師は教材の使用の上でもっと多くの自主権を持つようになる。すでに出版された教材から見れば、系統知識を呈する様式が排除され、もっと多くの学習活動の提案、予備材料などが現れた。形式の上では豊かで生き生きとなり、内容の上では生徒の生活ともっと密接になるのである。

### 4. 教授・学習様式の変化

新課程を実施している間、これまでの知識注入主義傾

向、受動的学習、暗記、機械的訓練の現状を変えることを強調する。生徒が主体的に参加し、楽しく探究し、実践に努力することを大切にする。生徒の情報を集め、処理する能力、新しい知識を獲得する能力、問題を分析し、解決する能力、交流と協力の能力を養成する。多くの実験区では、教師は多様化の教学組織形式、例えば、問題に基づいての教学、発見学習、項目に基づいての学習、協力学習などを探索し始めた。

### 三 現在実施中の際立った問題

疑問の余地がなく、今度の課程改革は広さから見ても深さから見ても、中国教育の50年あまりの発展歴史の中では、空前である。それゆえ、必ず莫大な挑戦に直面する。現在一部の実験区での実施状況と各界の人々の意見から見れば、際立った問題は以下の二点が含まれている。

#### 1. 新しい学力観とこれまでの評価観の矛盾

新課程では、子どもが人間としての全面的な発展と実際の問題解決の能力の養成を大事にする。一方、実際の社会では受験システムが依然として変わらないので、生徒と保護者たちは進学と良い将来のため、受験勉強をしな

ければならない。従って、教育評価観が変わらない限り、課程改革は徹底的に実施できないのである。

#### 2. 教師の専門能力の相対的に不足

新課程の実施のため、教師は新しい能力を要求される。これは生徒たちが自ら勉強できるような授業づくり、学校に基づくカリキュラム (school-based curriculum) の開発などである。そして、総合教科、総合実践活動も、教師に関連知識と学生の自ら追求の力を育成する能力を要求される。しかし、大部分の教師はこの方面の準備は明らかに不足である。彼らは依然として、教科書にこだわり、機械的に学生を訓練することに慣れている。

#### 参考文献

- [1] 中華人民共和国教育部：『基礎教育課程改革綱要（試行）』，2001年6月7日。
- [2] 钟启泉，崔允漭，张华主編：『中華民族を復興するために、学生全員の発展のために——「基礎教育課程改革綱要（試行）」解説』，華東師範大学出版社，2002年版。